

『経営分析研究』 執筆要領

1995年（平成7年）6月3日制定

2014年（平成26年）5月17日改訂

2019年（令和元年）6月1日最終改訂

1. 研究論文、事例研究、研究ノート（以下、「論文等」と記す）の原稿は、著者情報、本文、英文要約で構成する。
2. 原稿はA4用紙で作成する。日本語原稿については読点「、」と句点「。」を用い、英語原稿についてはコンマ「,」とピリオド「.」を用いる。
3. 著者情報については、論文等のタイトル、著者（複数の場合は著者全員）の氏名ならびに所属機関を、日本語および英語で記載する。さらに、連絡先(住所・電話番号・ファックス・emailアドレス)を記載する。
4. 本文については、論文等のタイトル、1行あけて概ね400字の要約、1行あけて5つ以内のキーワードを記載し、2行あけて論文等の本文を記述する。本文には、著者を特定する情報は記載しない。本文は、主たる記述、注、文献リスト、図表の順とする。
5. 本文の分量は、原則として、主たる記述、注、図表、文献リストを含め、刷り上がり換算で最大12ページ程度（概ね17,000字以内）とする。但し、編集委員会が認める場合は、この限りではない。
6. 英文要約については、タイトル、著者名、概ね150語の要約、5つ以内のキーワードをすべて英語で記載する。
7. 本文中の節番号については、以下の通りとする。
大見出し：Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ．
中見出し：1．2．3．
小見出し：(1)(2)(3)
なお、大見出しには前後各1行空行、中見出しには前1行空行を入れる。
8. 図表については、本文中に挿入箇所を明示する。但し、編集上、図表の掲載箇所は、投稿者の指示と異なることがある。
9. 注については、本文中の注記箇所に片括弧「」と番号を付し（例：1)), 主たる記述の末尾に

「(注)」として番号順に一括して記載する。

10. 本文および注における文献引用については、下記のように著者名と出版年で表示する。

著者が1名の場合：薄井（2019）

著者が2名の場合：薄井・坂上（2019）

著者が3名以上の場合：薄井他（2019）

著者が1名の場合：Lev（1994）

著者が2名の場合：Jensen and Meckling（1976）

著者が3名以上の場合：Graham et al.（2005）

同一著者の同一年の複数の文献引用の場合：高松（1985a）高松（1985b）…

11. 文献リストは、原稿の末尾に「参考文献」として、アルファベット順で表示する。

文献リストの書き方は、下記のとおりとする。

ア. 単行書の場合：

Lev, B. (1974) *Financial Statement Analysis: A New Approach*, Prentice-Hall, Englewood Cliffs.

森脇彬（1985）『倒産企業に学ぶ』同友館

イ. 論文の場合：

Jensen, M. C., and W. H. Meckling (1976) "Theory of the Firm : Managerial Behavior, Agency Costs and Ownership Structure," *Journal of Financial Economics*, Vol.3, No.4, pp.305-360.

高松和男（1988）「キャッシュ・フロー計算書の意味と構造」『会計』第134巻第2号, pp.1-15

ウ. 同一著者の同一年の2つ以上の文献を引用する場合：

Penman, S. (2001a) *Financial Statement Analysis and Security Valuation*, (fifth edition) McGraw-Hill. (杉本徳榮・梶浦昭人・井上達男訳（2005）『財務諸表分析と証券評価』白桃書房)

Penman, S. (2001b) "On Comparing Cash Flow and Accrual Accounting Models for Use in Equity Valuation," *Contemporary Accounting Research*, No.18, pp.681-692.

高松和男（1985a）『最新例解会計学』中央経済社

高松和男（1985b）「アメリカにおけるインフレーション会計の発展～ローゼンフィールドの所説を中心として～」『創価経営論集』第9巻第2号, pp.25-42

高松和男（1985c）「会計上の負債概念の新展開～FASB・FACS第3号における負債の定義について～」『創価経営論集』第10巻第1号, pp.35-45

エ. ウェブ・ページの場合：

当該 url と閲覧日を次のように示す。

<https://www.asb.or.jp/jp/> (2019年7月24日)

編集データ

本誌『経営分析研究』第36号および第37号の査読付き論文（投稿論文およびカンファレンス論文）の編集データは以下のとおりでした。

- ・ 論文受付数：9
- ・ 論文受理数（採択率）：5（56%）

本誌刊行にあたり、ワークショップの討論者の先生方および査読者の先生方には大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

[ワークショップ討論者（兼 事前査読者）] 敬称略

榎本正博（神戸大学）

金鉉玉（東京経済大学）

河内山琢磨（一橋大学）

阪智香（関西学院大学）

吉田靖（東京経済大学）

[査読者] 敬称略

浅野信博（大阪公立大学）

石田惣平（一橋大学）

大鹿智基（早稲田大学）

太田裕貴（専修大学）

木村史彦（東北大学）

櫻田譲（北海道大学）

林隆敏（関西学院大学）

廣瀬喜貴（大阪公立大学）

松本紗矢子（北海道情報大学）

山本達司（同志社大学）